

開腹胃全摘の手術を受けられる

説明医師

説明看護師(外来)

看護師(病棟)

様へ

月日	月 日	月 日	月 日	月 日	
経過	手術前日	当日（術前）	当日（術後）	術後 1 日目	術後 2 日目
目標	体調を整え手術にのぞめる	安心して手術が受けられる	術後の痛みや不快感を伝えられる	水分を摂取できる 看護の付き添いで歩行ができる	食事のとり方が理解できる
検査				胸腹部のレントゲンと血液検査を行います	
食事	夕食後絶食 21時まで水分可 朝食は自宅	絶飲食となります（経口補水液は朝6時まで可）		水分のみ可 （医師の指示による） 	分割食（流動食）
処置・観察	体温・脈拍・血圧 酸素飽和度を測定します リストバンドを装着します （退院日まで装着します） 入浴前にお臍をきれいにします	歩いて手術室まで行きます	手術後、酸素マスクをしています		手術創の確認をします 尿の管を抜去します （2～3日目） 背中に入っている麻酔の管を抜去します （2～3日目）
注射・内服	持参薬、お薬手帳を看護師にお渡しください 就寝前に下剤を服用します		引き続き点滴があります 手術後、抗生剤の点滴を行います	血栓予防の薬剤を皮下注射します。 腸瘻から栄養剤の注入が始まります。	
行動	シャワーしてください 制限ありません	トイレを済ませ、手術着に着替えてください 入れ歯、時計、眼鏡、アクセサリーははずしてください	ベッドで安静にしてください	歩行可となります （最初の離床は看護師と一緒に） 看護師が体を拭きます 手術着から寝巻きに着替えます	
説明	術前オリエンテーション 医師より説明 ・入院治療計画と麻酔について 看護師より説明 ・入院生活について 薬剤師より説明 ・お薬について ・持参薬確認		術後、痛いときはお申し出ください 医師より説明 ・手術の経過について		栄養士より説明 栄養相談 （術後2日目） 病室で

*** 入院に際して、この用紙を必ずお持ちください**

* 入院に関して心配事がありましたらお申し出ください。

* 入院時に栄養状態を評価して栄養管理計画を立てます。定期的に栄養状態の再評価を行い計画を見直します。

* この表はおよその経過をお知らせしたものです。種々の都合により、予定通りではないこともあります。

月日	月 日	月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日	月 日～ 月 日
経過	術後3日目	術後4日目	術後6～7日目	術後8～9日目	(10～14日目)退院
目標	食事のとり方が理解できる 看護の付き添いで歩行できる	食事形態が変わることになる	順調に食事をとることができる 腸瘻の管理をマスターしていく		退院後の生活について不安なことを主治医や看護師に伝えられる
検査	 胸腹部のレントゲンと血液検査を行います		 必要時、胸腹部のレントゲンと血液検査を行います		
食事	分割食（流動食）   	分割食（3分かゆ）   	分割食（5分かゆ）   	分割食（全かゆ）   	退院日は朝食後に退院です   
処置・観察	 体温・脈拍・血圧 酸素飽和度を測定します	 お腹の管を抜去します（4～5日目）	 手術創の確認をします		 退院時、リストバンドを外します
注射・内服	 引き続き点滴があります 血栓予防の薬剤を皮下注射します 腸瘻から栄養剤の注入をします			 7日目で点滴が終了します	
行動	 看護師が体を拭きます		 シャワーできます（4日目以後）		退院となります
説明		 看護師から腸瘻の指導が始まります	 栄養士より説明・栄養相談（術後7日目） 栄養相談室で		 医師より説明 ・退院後の治療について  看護師より説明 ・退院後の療養生活について ・次回外来受診について

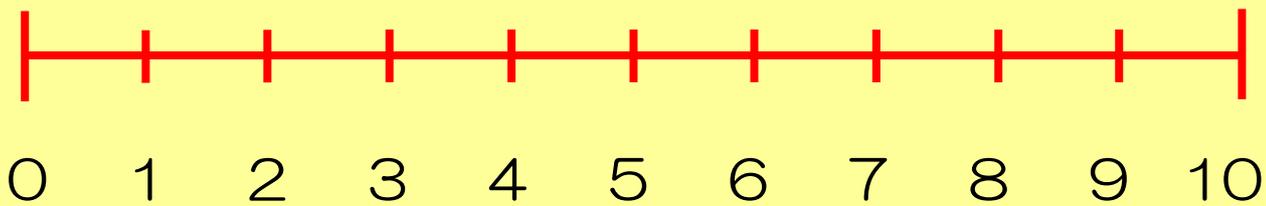
手術後の傷の痛みを教えてください

講習を受けた麻酔科医・看護師・薬剤師・臨床工学士で構成された術後疼痛管理チーム（APS）チームが、患者さんの傷の痛みに対して、手術前から計画を立て、傷の痛みが軽減するよう取り組んでまいります。

実際の傷の痛みに対して、NRS(Numerical Rating Scale)：痛みの評価スケールを使用します。0 から 10 までの 11 段階です。

👉 **手術後、どの程度の痛みかを数値で教えてください**

10 を最大の痛みとした場合
今の痛みはどのあたりですか



痛みがない

中等度の痛み

最大の痛み

APS チームがサポートします。

よろしくお願いします。

